

文 化 服 装 学 院
平成 28 年度 自己点検・評価
内部評価委員による報告書

平成 29 年 7 月 26 日

1 教育理念、人材育成像

● 1-1 学校の教育理念

1-1-1 文化服装学院の教育理念、人材育成像

- 概ね明確に記載されているが、「人間教育」という表現にはより具体性が求められる。

2 学校運営

● 2-1 法人組織 / 2-2 学校組織

- 教育職員の評価は慎重に行わなければならない。
- 学生指導を評価する方法は、学生アンケートだけではない。
- 給与制度の検討委員会における経過報告等、途中の状況も公にする必要があるのではないか。
- 次年度への課題として、平成 27 年度より開始した海外研修、教員派遣に伴う「危機管理マニュアル」の作成に関しても未だ進められていない現状を踏まえ、早急な対応が求められる。
- 法人組織：教員評価制度、定年延長に伴う制度改革の方向性が明確ではない。
- 法人組織：時間をかけている割に結果が出ていない。学園教職員メンバーが委員として動いているか見えない。
- 法人組織：給与制度や手当のみに言及しているが、例えば組織内の改編や人事交流等、他の案件についても検討の必要があるのではないか。
- 事務職員の組織：事務を役割分担しているものの、相互の仕事が理解されているとは思えない。
- 留学生支援委員会の平成 28 年度活動内容について、学生に対する支援が行われなかったことは評価できない。

● 2-3 財務状況

- 人件費を考え直さなければ健全化しない。
- 人件費の削減を具体的かつ早急に実現する必要がある。
- 担当部署として寄付金や受託事業収入拡大や全学的な入試広報体制を進める中で、具体的な取り組みを行ったのかが不明である。
- 収入に見合った財務にするべきである。

● 2-4 法令等の遵守

2-4-1 法令遵守の状況

2-4-2 諸規程の制定、学則、細則、内規等の整備

2-4-3 個人情報の保護

2-4-4 ハラスメント対策

- ・教職員においてまだ認知不足の現状のなかで、コンプライアンスに対する教職員への認識を徹底するための方策を、具体的にどのように行ってきたのか不明である。
- ・編入学に関する規程の見直しは、既にファッション高度専門士科 3 年次に編入学が実施されているので早急に対応するべきである。

● 2-5 社会貢献等の取組

2-5-1 活動への支援状況

2-5-2 公開講座・教育訓練等

- ・前向きに社会貢献を考え、新しい取り組みを検討する必要がある。

3 教育環境

● 3-1 施設・設備

3-1-1 教室・講義室・実習室・研究室・事務室の整備・使用状況

3-1-2 機材・備品の管理状況

- ・教室備品は学園全体で管理しなければ、無駄が多い。
- ・学園創立 100 周年に向けた事業計画として教室、実習室の整備は今後より不可欠なものと考えられるため、より計画的な観点で進めていくことが必要である。

● 3-2 付属機関・施設

3-2-1 図書館

3-2-2 服飾博物館

3-2-3 ファッションリソースセンター

3-2-4 文化・服装形態機能研究所

3-2-5 国際ファッション産学推進機構

3-2-6 国際交流センター

3-2-7 IT 戦略室

3-2-8 健康管理センター医務室

3-2-9 文化事業局

3-2-10 学生食堂

3-2-11 文化北竜館

3-2-12 文化ファッションインキュベーション

3-2-13 学生寮

- ・各部署で取り組みがしっかりなされているため、それをさらに生かせる方法を考えた

方が良い。

- 教育機関として学生への還元的な役割をしっかりと踏まえることが重要である。
- 図書館、博物館、ファッションリソースセンター、健康管理センター医務室等学生支援部門また教育研究に係わる部門施室については全体的に評価できるが、収益部門をはじめ機能の統合、効率化に向けた課題が進んでいない。

4 学修支援

● 4-1 キャリア支援

4-1-1 就職活動支援・就職状況

4-1-2 企業開拓・関係強化

4-1-3 キャリア教育

- 学生のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の低さに対し、早急な対策と改善が必要である。
- キャリア教育を担任のみで行うことは指導として不十分である。本来の目的に立ち返り検討すべきである。

● 4-2 資格取得支援

4-2-1 資格取得率・状況

- 学生にとってのメリットを明確にしていけないと受験者を増やすことは難しい。企業側が、これらの資格について重要視していない現状があると思われる。
- 日程変更、受験者への周知は学校単体で対応できるものの、受験者増加の施策は難しい。産業界との連携において、実社会におけるメリットをより創出する方向で積極的に取り組まなければ難しい。

● 4-3 学生相談体制

- 個人情報等の制約はあるが、学校教職員との連携、対応が必要になるケースもあるため可能な範囲で情報の共有をする必要がある。
- カウンセラーによる講習、報告会などの機会を持つことが求められる。
- 学生にも周知され、良い環境で運営されていると思う。

● 4-4 経済支援・健康管理

4-4-1 奨学金

4-4-2 健康診断

- 奨学金のありがたさを感じている学生が少ない。借用するための審査を厳しくし、本来に勉強したい学生にのみ支給した方が良い。

- 奨学金制度が広く認知されているが、一方、延滞率低下に対しての指導が課題である。
- 奨学金返還延滞に対する更なる取り組みを求める。

● 4-5 卒業生・社会人への支援

4-5-1 卒業生の活躍状況

4-5-2 すみれ会（卒業生の会）

4-2-3 再就職・起業支援

- すみれ会の課題はたくさんあり、コンテンツやしくみの検討を具体的に早急にすべきである。
- 再就職・起業支援：在校生・教員に卒業後の再就職支援システムがあまり認知されていないため、卒業生にも伝わらない。

5 教育活動

● 5-1 学校のカリキュラム編成方針

5-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成方針

- ファッション業界の現場で即戦力となるカリキュラムの構築がまだ不十分である。具体例を出しても良い。
- カリキュラムについては、各科、各課程で継続的に検討し、教育課程編成委員会も組織的に改善に向けて活動している。

● 5-2 課程のカリキュラム編成方針、授業研究

5-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 各科の教育活動の方向性がきちんと明記されている。
- それぞれの科の特色とそれに即したカリキュラムの課題や対策が明確に表記されている。
- 各科の課題に対する取り組みが行われている。

5-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究服飾専門課程のカリキュラム編成方針、授業研究

- 2 年次以上の各科の取り組み内容に特色が出ているのがわかりやすい。
- コラボレーションについては 継続されているものから新規を含め学習効果があがるようカリキュラムに組み込まれているように受け取れる。
- 職能にあわせたカリキュラムの工夫がされている。
- 企業との取り組みや、留学生増加に対する工夫など、各科の課題に対する取り組みがされている。

5-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

- 外部講師や特別講義の調整も大切だが、担任自ら、学生に講義出来るよう開拓して欲しい。
- 1、2 年次のカリキュラムは科ごとの特色にあわせ構成ができている。が、3 年次以降については個々という点で具体策が見えてこない。
- 外部講師や特別講義なども含め、育成目標に沿って一貫したカリキュラムであるか検証することを引き続き行ってほしい。
- 学生募集休止や募集停止の根本的原因を探る必要がある。

5-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

- 工芸という科の特色を生かす上で、グッズ基礎科のカリキュラムが、上級（帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ）にどのように影響を及ぼすのか明記して欲しい。
- カリキュラムやコラボレーションから、実務につながる教育がされていることがわかる。
- インターンシップの取り組みが共通して拡充している。

5-2-5-1) II 部服装科のカリキュラム編成状況、授業研究

5-2-5-2) II 部ファッション流通科のカリキュラム編成状況、授業研究

- II 部学生は目的意識が明確な学生も多いが、レベル差が大きく、時間的な制約がある中で、フォローアップ体制をとっていることは評価できる。しかし課題が遅れている学生のフォローアップについては、より充実した体制作りを早急に話し合い、実行に移せるようにして欲しい。

5-2-6 関連科目の授業研究

- 各科の特色に合わせ、いかに科目に興味を持たせるか等、課題と取り組みが明確である。
- 各科、各学年の適切な取り組みを検証しながら進められていることが分かりやすく表記されている。
- 留学生への対応がどこにおいても課題となり、それぞれの工夫がみられる。
- 各科目で学生のレベルに対応すべく取り組んでいる。授業評価アンケートで検証しながら継続してほしい。

● 5-3 学外授業

5-3-1 学外授業の状況

5-3-2 インターンシップの状況

5-3-3 海外研修の状況

5-3-4 コラボレーションの状況

5-3-5 コンテスト活動の状況

- 職員会議等において学生相談室、医務室の現状などの報告があると良い。
- コラボレーションの見直しを早急にする必要がある。
- コンテストの応募学生の減少について早急に対策を立てなければならない。
- コンテスト活動については、全科で対応や制作の方法などを検討する必要がある。
- 学生たちのファッションに対する食欲さの減少と、コンテスト参加数が比例している。
その点をふまえた対策でなければ効果は望めない。
- インターンシップは受け入れ企業の開拓および学生とのマッチングが重要である。

● 5-4 学校行事

5-4-1 行事の状況

- 学校行事は各部署が担当し滞りなく進めるだけではなく、学生達自らが考え、参加出来る行事があると良い。
- 文化祭の内容を見直すことも必要である。特にバザーは布地・副資材の手配が厳しくなっているなかで、利益とボランティアの考えをどのように捉えるかが課題である。
- 文化祭の単位化は、単位を付与する目的や方法を検討することが必要である。

● 5-5 課外活動

5-5-1 学友会（在校生の会）

- 学友会組織や活動も、卒業生や業界など外部との関わりを広げた方が良い。
- 学友会活動の運営に支障がないように、役割分担を再確認することも重要である。
- 学友会委員研修においては、学生の独自性を考慮した内容で行われているが、学校との係わりや教育的側面を再度検討する必要があると考える。

● 5-6 教育・成績評価

- 複数科では評価基準についてそのつど打ち合わせをしているため、ある程度の基準は整っている。
- 評価入力システムを早期に確立する必要がある。
- 成績評価の Web 入力について、今後導入していくために検討を重ね、しっかりとしたマニュアルを作成していくことが重要である。
- システム導入については毎回問題があり、十分な検討が求められる。

● 5-7 退学者への対策

- 退学者増加にともない、学生相談室の充実を考えたい。
- 学内再入学、転科の制度は、学生の退学を食い止める一定の効果を上げている。

- 退学者の入試の種類や成績などの分析を行い、どのような傾向があるか検証するなどの取り組みも今後行ってほしい。

● 5-8 学生募集

5-8-1 学生募集の状況

5-8-2 広報活動

- 学生募集に関しては計画的に、データに基づいて行うことが求められる。
- 学校説明会の内容が参加者のニーズに即しているかどうか、アンケート等を実施し、内容の見直しや提案に活かしても良いのではないかな。
- 大学と差別化するために、夏休み前の早いタイミングで、説明会や自己推薦などの PR・募集活動を集中して行うべき。
- 学生募集の状況：文化服装学院が他校に比べて劣っている部分への取り組みが急務である。
- 現状の方法が結果に結びついていなければ、早急に対応しなければならない。

● 5-9 国際交流

5-9-1 留学生の受け入れ状況

5-9-2 合作校・提携校の状況

5-9-3 外部団体・機関との連携

- 学内におけるグローバル化の推進が行われていない現状を、早急に対応して行かなければならない。
- 魯美クラスについては現状「留学」ではなく「移動教室」である。日本人や他国の学生との交流がほとんどなく、意欲が低い学生には語学が身に付く環境ではない。担任からの状況報告を明確に伝え、問題点の解決策につなげてほしい。
- 新規開拓等が次年度の課題に示されているので期待する。また、アジアのファッションの拠点を本校につくる上での基盤作りを同時に進めることも期待する。
- 中国人留学生だけが人数の関係で取り上げられているが、他国も検討が必要である。

文化服装学院 平成 28 年度
自己点検・評価 内部評価委員による報告書

自己点検・評価委員会 内部評価会議

開催概要

平成 29 年 7 月 5 日（水）15：00～17：00

文化服装学院 B 館 4 階 B044 会議室

出席者（敬称略・順不同）

内部評価委員

相原 幸子、野中 慶子

辛島 敦子、西平 孝子、増田 大助、宮原 勝一、山田 とし子

横倉 孝、須藤 久栄、石崎 克典、吉野 真文

自己点検・評価委員

渡井 邦重、相澤 雅美、山口 容子、

此村 公子、稲葉 りさ、

阿川 周子、三田 清美、森本 慧

石井 律子、佐藤 由利子

菊池 明子、朝日 真

小林 克也、宇都宮 愛

オブザーバー

池田 衛、村田 達也、井守 あさみ、浜田 法子、福田文子、古澤 直子

以上